

「一輪車に乗れる」というと、50歳を過ぎた私の年齢ではびっくりされる。「サーカスにでも居たんですか?」。ええ、その通りなのだ。サーカスに居たことがあるのだ。正確には、ピエロのアルバイトをしていた。その時に教えてもらったのが、一輪車。

最近では、子供の教材にまでなつて普及しているが、大人になつて始めるのは、なかなか難しい。何より勇気がある。最初は、なぜ一輪しか無いのにバランスをとつていられるのか分からない。人に手を引かれても立っていられない。しかし、いったん乗れるようになるのと、こんな面白い乗り物もない。

まず驚くのは、動く方向が自由自在だということ。直進はもちろん、左右にやんわりとも曲がれるし、急角度にも曲がれる。うまくなれば、バツクも出来るようになる。ピョnpionとジャンプも出来る。そして一番の驚きは、両手が空いていることだ。自転車の両手放しをずっとやっているのに似ている。

両手が空いていれば何かしたくなる。サーカスでは、ジャグリング「お手玉」をやるのだが、何をやってもいい。ジュースを飲んでもいい。絵を描いてもいい。もうひとつ一輪車を前に押しながら走ってもいい。アメリカでは、一輪車に乗りながらバスケット

ボールで遊ぶチームもあった。

難しい一輪車もある。とてつもなく背の高いやつだ。3メートルを超えるものまである。究極は、サドルの無いモノだ。車輪とペダルしか付いていない。いったいどうやって乗るのかさえ想像がつかない。

では、一輪車で難しいワザは、何だと思う? それは、じつと止まっていることなのだ。止まるとボタンと倒れてしまう。

どうですか? やってみますか。意外と危なくない乗り物ですよ。運動になる事請け合いです!

【朝日新聞・マリオン】

2007年2月28日掲載